在宅医療・介護を考える北空知地域住民フォーラム in 深川の開催報告

～　いずれはみんなに訪れる人生の最期　どう迎えたいですか？　どう送りたいですか？　～

・日　時　令和６年１１月１０日（日）１０：００～１２：００
・場　所　深川市　経済センター　３階多目的ホール
・参加者　１６１名　（深川市１３５名、妹背牛町８名、秩父別町５名、北竜町４名、沼田町２名、その他７名　うち一般１２１名、支援関係者４０名）
・目　的　北空知地域の住民の方に在宅医療や介護、地域での支え合いについて考えてもらう地域啓発の場とする

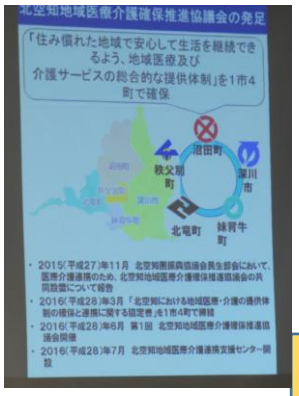


開会挨拶する深川市の宮森副市長



司会進行は深川市高齢者支援課の北垣課長

・事前申込者は１４８名でしたが、深川市を中心に、当日の参加者は１６１名と当初の目標の１２０名を大幅に上回る参加者数となりました。
・例年、早くから来場された方に、「ライスパワー体操」のビデオを放映し、介護予防体操を紹介していますが、今年は充分に浸透している地域であることからビデオ放送の実施はしませんでした。
・司会進行は、開催地の深川市高齢者支援課　北垣課長です。
・開催にあたって、深川市の宮森副市長から歓迎の開会挨拶をいただきました。





北空知の取組を紹介する村田事務局長

・北空知地域の在宅医療・介護の取組では、北空知地域医療介護連携支援センターの村田事務局長と深川市立病院訪問看護ステーションみのりの立花管理者のお二人からお話しいただきました。

・村田事務局長からは「自宅で安心して暮らすために～チーム北空知の取組」と題し、北空知の医療と介護は、人や資源に限りがあり、全てのサービスを提供できるわけではないため、関係者が知恵と力を集めて連携し不足分をカバーしようとしている取り組みの紹介がありました。

・そして事業所同士だけでなく地域住民の助けあいや、困った時の相談先の紹介、そして緊急時の備えを普段からしていくことの大切さについて説明がありました。

・介護予防や健康づくり、病気や介護を必要になった時の対応など、住民の皆さんに考えてほしいこと、やってほしいことを協議会発行のパンフレット「住み慣れたまちで安心して暮らすために」の内容を中心にお話をいただきました。

・北空知地域は過疎地でも一定の介護・医療施設があり大きな災害などがなく暮らしやすい地域ではとのお話もありました。

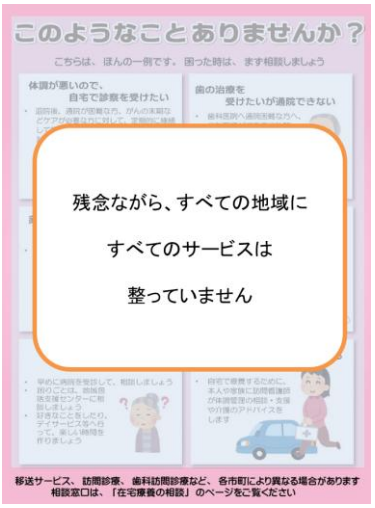


１６０名を超える参加があり満員状態となりました



近隣駐車場も借りて対応。近い場所から満車状態になりましたがなんとか収容





自宅で安心して暮らすために

訪問看護の取り組み





患者･利用者を多職種連携で住み慣れた地域過ごせるよう支援します

訪問看護の事例を紹介する立花さん

数日後　永眠される

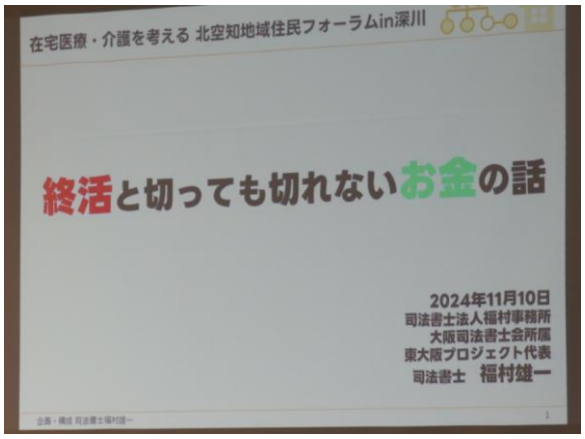
お孫さんに見守られながら安らかに永遠の眠りにつかれる

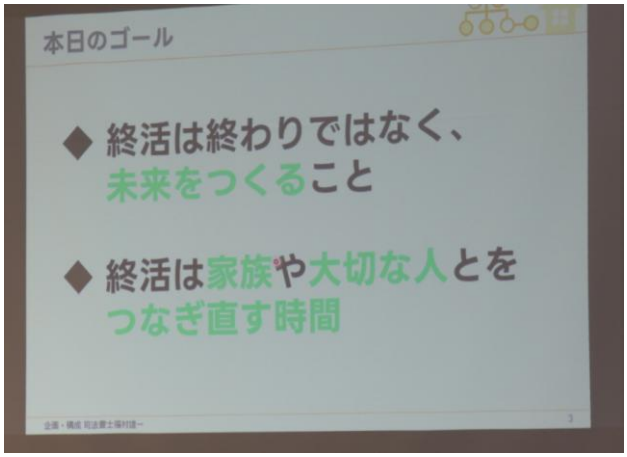


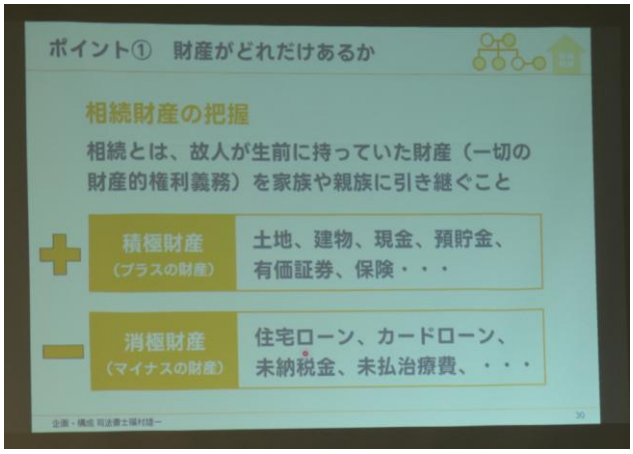
・続いて、立花管理者からは、訪問看護の活動を２つの事例から紹介をいただきました。
・１例目は、100 代女性で心不全を患いながら孫と二人暮らしすることとして在宅酸素療法を用いながら退院した事例です。退院時には住宅環境や介護サービスと併せ訪問看護を利用することで在宅生活を支えるサポートを実施しました。
　数日後、お孫さんに見守られながら最後を穏やかに自宅で過ごすことができました。
・２例目は、70 代女性でひとり暮らし。近くに娘さんが住んでおり、がん終末期緩和ケアを行いながら、痛みのコントロール後、本人の強い希望で退院した事例です。多職種によるサービスを受けながら、食べたいと本人が言っていた餃子を食べるなど、自宅での食事を楽しんでいました。薬剤で痛みのコントロールをしながら経過をみていたがすこしずつ体調が変化し辛そうな表情がみられる様になり娘さんから不安が出てきて入院。数日後家族に見守られながら永眠されました。
　数週間後、心が折れそうな時もアドバイスをもらえたことなど娘さんから感謝の言葉がありました。
・立花管理者からは、住み慣れた地域や自宅で支える体制を整えているので是非訪問看護を利用していただきたいとの説明がありました。

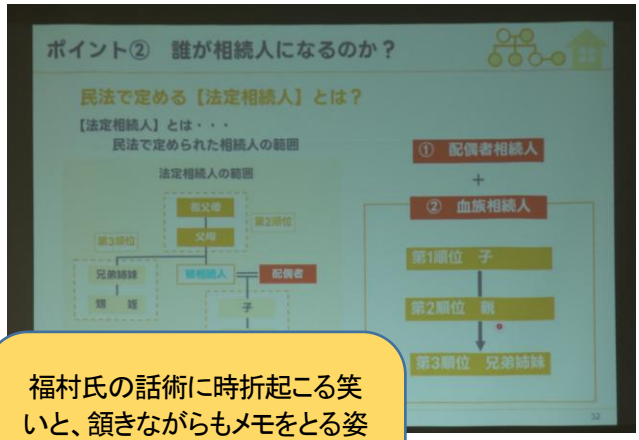


講演する司法書士法人福村事務所
福村　雄一　氏









福村氏の話術に時折起こる笑いと、頷きながらもメモをとる姿も見られた参加者の皆さん。

遺言とは「言葉を遺す」こと



・福村氏の講演は、「終活と切っても切れないお金の話」というテーマで、人生の最終段階に向けた準備についてのお話がありました。

・「終活とは終わりではなく未来を作ること」「終活は家族や大切な人とをつなぎなおす時間」をゴールとして、「お金（財産）の人生会議」「相続」「遺言書の必要性」「法改正による新制度」に絞った講話がありました。
・北空知地域にも司法書士事務所は数名いるのでアクセスして終活に役立てていただきたい

・人生会議（ACP＝アドバンスケアプランニング）とは、最終段階に向けて自分が受けたい医療や介護について、大切な人と話し合うこと。多くの人が希望はあるけれど実際に家族と話し合っていない。事前に準備をすることで、後悔を減らすことができる。
　自身の経験から大切にしてくれた祖父に合う頻度が少なくなり、大事なこと（血液型！）を伝えられなかったことが悔やまれる。

・相続は、亡くなった後も財産との関わりが続く重要なテーマ。相続手続きには、葬儀や名義変更、インフラの名義切り替えなどが含まれる。知っておきたい３つのこととして、１つ目は、将来相続が発生した場合に財産がどれだけあるのか。２つ目は、誰が相続人になるのか。３つ目は、相続分がどれぐらいあるのかということ。
・相続あるあるとして、腹違いの兄弟姉妹など相続権のある親族を把握できていないこと。

・遺言書は財産の多い人だけでなく、誰にでも必要。残された家族のためだけでなく自分の人生を立ち止まって考えるきっかけ。若いうちから下書きすることをオススメする。

・終活のキッカケとしては、罰則規定有りで令和６年度より相続登記が義務化された。

非常にわかりやすく、またテンポよく紹介がされ参加者にとっては自分や家族の人生の最後について考える機会となりました。



意見交換ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの和田さん

・「人生の最期をどう迎えたいですか？どう送りたいですか？」をテーマに行われた意見交換は、２名の質問のみで（会場借り上げ）制限時間となり意見交換までには至りませんでした。

・福村氏からは、遺言と遺留分の違いや相続を知り得ないときはどうするか、など具体的な疑問にそれぞれ的確な回答がありました。



福村氏へ質問する参加者



それぞれの質問に端的に回答いただきました





○参加者アンケートから

・講師の方がわかりやすく、大きな声で伝えていただきました。とても参考になりました。言葉を遺す。残された家族のために、笑えない話しを笑って話せるうちに！実践したいです。ありがとうございました
・必ずやって来る未来の話しを専門家に聞かせてもらえて参考になった
・ユーモアを交えて、解り易くお話頂きとても良かったです！
・遺言書の「下書き」から始めてみようと思いました
・将来の不安が減りました。講演がすばらしかったです
・自分はどういう治療、又は介護を希望するか、家族と話し合ってみたいと思った
・２０年も深川に住んでいるので住みやすい地域だったと思いたい
力になれることがあれば参加もしてみたい
・いろいろお世話になっています。介護を支えてくださるみなさんいつもありがとうございます

来年度の開催内容は現在未定ですが、担当部会で鋭意検討中です。